

令和6年度認定

計画名	55 宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）拠点計画
-----	--------------------------------

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R6			R7			R8			R9			R10		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
サン・ファン館入館者数（人）	17,000	10,706	63%	65,000	28,713	44%	68,000		0%						
サン・ファン館の満足度（%）	65	70	108%	68	68	100%	72		0%						
サン・ファン館の外国人入館者数（人）	150	153	102%	780	258	33%	950		0%						
ミュージアムカフェの利用者数（人）	2,700	0	0%	11,700	140	1%	12,240		0%						

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

【分析】（※数値は令和7年度来館者アンケート調査及び受付における居住地集計表による） ・計画前半（令和6年度・7年度）を通じ、リニューアルオープンを経て強化事業の成果を活用しながら事業を展開した。 ・入館者数はR7実績28,713人（達成率44%）に留まり、外国人入館者数も258人（達成率33%）と目標未達となった。 ・満足度は68%と目標を達成しており、「どちらかといえば満足」を含めた肯定的評価は93%に達している。 ・また、再来館意向についても「ぜひ来たい」が44%、「機会があれば来たい」を含めると93%と高水準であり、展示更新や体験コンテンツ整備、多言語対応等の基盤整備の効果が来館者評価に表れている。 ・来館者構成では新規来館者が9割を占めており、リニューアル直後の特性として新規層の取り込みが進展している。 ・また、宮城県居住者が約6割を占め、家族連れを中心とした利用傾向となっている。情報取得手段としては公式WEBサイトを中心としたデジタル媒体が有効に機能している。 ・一方で、来館手段は自家用車利用が81%と高く、公共交通アクセスの不足が集客に影響を与える主要因の一つとなっている。 ・また、カフェ利用者数は140人（達成率1%）にとどまり、施設整備は完了しているものの、アテンダントが展示案内・物販・飲食を兼務する運営体制に加え、館内動線や認知が十分に形成されていないことから、事業効果が発現していない状況が見られる。 【評価】 ・展示更新、多言語対応、情報発信基盤等のハード整備は計画どおり概ね完了しており、満足度や再来館意向といった質的指標において一定の成果が認められる。 ・一方で、入館者数および外国人入館者数は目標未達となっており、その要因としては公共交通アクセスなど施設単独では対応が難しい外的要因の影響が大きい。 ・今後は石巻市の観光施策やDMO等との連携を強化し、広域的な誘客環境の改善を図る必要がある。 ・また、カフェ事業についてはハード整備は完了しているものの、運営体制および利用導線の未整備により事業効果が十分に発現していないことから、ショップとの統合運営等を含めた運用改善が必要である。 ・総じて、計画前半において基盤整備により質的成果は達成した段階にあり、今後は集客力向上に向けた運用改善および外部連携の強化が主要課題である。
--

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R6	R7	R8	R9	R10	事業類型ごとの実績額
1－①	慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業	—	伊達政宗書状（日本語版・ラテン語版）複製制作、展示コーナー造形改修設計				4.9百万円
1－②	展覧会及び関連企画の開催事業	写真展「ローマへの遠い旅」を開催（自主事業）、次年度展覧会に向けての準備・調整	企画展2本開催（「映画のなかの復元船」「ローマ教皇謁見式と慶長遣欧使節」）、シアター映像解説整備				
1－③	常設展示図録の製作	—	—				
1－④	食とアートに関する体験企画事業の開発実施	—	—				
1－⑤	食と音楽による高付加価値コンテンツの造成・提供事業	—	—				
2－①	帆船と航海に関する体験企画事業の整備と実施	—	ミニヨット・ロープワーク・カナガけ体験実施、ロープワーク・木材体験コーナー整備				1.9百万円
2－②	天文と航海術に関するプラネタリウムコンテンツの制作	—	—				
2－③	常設展示追加・更新事業	—	—				
3－①	サン・ファン館利用に係る利便性向上事業	次年度の設置に向けた業者選定および参考見積依頼	—				0.3百万円
3－②	石巻市サン・ファン・パウティスタパークの利便性向上	—	—				
3－③	サン・ファン館への交通案内の強化	—	JR渡波駅パンフレットラック設置・案内看板多言語化、国道398号沿い看板修繕				
4－①	ミュージアムショップ商品開発事業（自主事業）	オリジナルグッズ約20品開発・販売					—
4－②	ミュージアムカフェにおける飲食の提供・商品開発事業	—	—				
5－①	WEBサイトリニューアル事業	既存フレームを利用してのWEBサイト全面更新及びリニューアル特設LP、多言語LPの製作	WEBサイト全面リニューアル（4言語対応）、CMS整備、空撮映像掲載				3.7百万円
5－②	多言語パンフレット製作事業	日本語＋4か国語のパンフレット5種製作（デジタル・紙媒体）	—				
6－①	サン・ファン館利便性向上のための整備（関連事業3-①）	研修会の実施、券売機（現金）の導入、一部案内サインの見直し	キャッシュレス決済導入、多言語字幕システム設置、Wi-Fi整備、ベビー用品設置				4.8百万円
6－②	飲食スペースの設置・厨房設備の整備	次年度の整備に向けた共同事業者との協議	カフェスペース内装改修、厨房備品導入、12月供用開始				
各年度ごとの実績額→		—	15.7百万円				15.7百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析) ・基盤整備に関する事業（展示更新、体験コンテンツ整備、WEB・多言語対応）は概ね計画どおり完了している。 ・これらの事業により来館者満足度や再来館意向の向上といった成果が確認されている。 ・一方で、誘客の拡大に直結する事業については実施しているものの、交通アクセス等の外的要因の影響を受け、入館者数の増加には十分結びついていない。 ・カフェ等の収益系事業については、施設整備は完了しているが、運営体制および利用促進の面で課題が残っている。
(評価) ・ハード整備および情報発信基盤の構築に関する事業は達成しており、計画前半としては順調に進捗している。 ・一方で、誘客強化および収益事業の運営体制構築については今後の重点課題であり、事業効果の最大化に向けた運用面の改善が必要である。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名 要件	宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）	
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	ローマ教皇宛て伊達政宗書状複製の制作および展示コーナー造形改修設計を実施し、慶長遣欧使節の歴史的意義を伝えるための展示基盤を整備した。また、シアター映像「夢うつつ」の制作背景・見どころ解説整備、企画展「映画のなかの復元船」「ローマ教皇謁見式と慶長遣欧使節」を開催し、文化資源の魅力を多角的に発信した。	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	4言語対応のWEBサイト全面リニューアル（日・英・中・韓）およびCMS整備を実施し、空撮映像の掲載、展示運動型WEB閲覧ページの構築を行った。また、施設内Wi-Fi環境を整備し、来館者が持参端末でWEBコンテンツにアクセスできる環境を整えた。自主事業として、リニューアル後のWEBサイトおよびSNS（Instagram）での情報発信を継続的に実施した。	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	多言語対応字幕表示システム（Cotopati）を整備した。また、JR渡波駅の案内看板更新と多言語化、WEBサイトの4言語対応を実施した。前年度に整備した館内多言語解説パネルおよび多言語パンフレット（4か国語）と併せ、外国人来訪者に対応した解説環境を構築した。	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	共同申請者である宮城県、石巻市との協議・調整を通じて計画全体の進捗管理を行うとともに、石巻観光協会、石巻圏観光振興機構（DMO）とは定期的な情報交換を実施した。また、DMO主催の石巻圏学びの旅商談会への参加、サン・ファン祭りにおける地域団体との共催・協賛、観光キャラバンの実施等を通じて、地域の観光関係者との連携体制の維持・強化を図った。令和7年度からは専門学校との協働が開始されるなど、新たな人材・主体の参画も進みつつある。このほか、ショップ商品開発事業や強化事業において民間事業者との協力を適宜行った。	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	来館者アンケートを通年で実施し、来訪動機・交通手段・満足度・再来館意向等のデータを収集・分析した。分析結果から、自家車利用率81%、満足度68%（「やや満足」含む肯定的評価93%）、再来館意向44%（「機会があれば来たい」含む93%）等の実態を把握し、アクセス課題の定量化および施策検討の基礎資料とした。	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	文化観光拠点計画に基づき、入館者数・満足度・外国人入館者数・カフェ利用者数の4項目をKPIとして設定し、年度ごとの目標管理を継続した。アンケート結果および各事業の実績を踏まえた分析・評価を行い、次年度事業計画への反映を図るPDCAサイクルを運用した。	

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
石巻観光協会	・リニューアルオープン後2年目となり、強化事業で整備した展示環境や多言語対応、WEBサイト等の情報発信基盤を活用しながら、企画展の開催、体験事業の実施、オリジナルグッズの開発等の自主事業を継続的に展開している点は評価できる。 ・また、石巻圏学びの旅商談会への参加、サン・ファン祭りにおける地域団体との共催、観光キャラバンの実施等を通じて、地域の観光関係者との連携を維持しながら積極的なPR活動が行われている点も評価できる。満足度68%（肯定的評価93%）、再来館意向44%（同93%）という高い水準を維持しており、拠点施設としてのコンテンツの質は向上していると判断できる。 ・一方で、入館者数は目標の44%にとどまっており、公共交通アクセスの課題が集客の障壁となっている。 また、施設は牡鹿半島の入口部に位置しており、地域の観光動線におけるハブ機能の一端を担う立地にあることから、その特性を踏まえた誘客の在り方が求められる。 ・今後は、地域の観光動線への組み込みや二次交通の改善に向けた関係機関との連携強化を図るとともに、企画展や体験事業等による来館動機の創出を継続し、広域周遊における立ち寄り拠点としての位置づけを高めていく必要がある。

⑦今後の改善の方向性

■入館者数の増加に向けた取組 ・公共交通アクセスの課題解決に向け、市の交通施策との連携を働きかけるとともに、広域観光周遊ルートへの組み込みを関係機関と協議していく。 ・企画展や体験事業、イベント等を通じた来館動機の創出を継続し、リピーター獲得と新規層開拓を図る。 ・強化事業で整備したWEBサイト・SNSを活用した情報発信を強化し、来館前の認知度向上に努める。 ・石巻市では、宿泊税を活用した観光回遊バスの運行に向けた本格検討が進められている。サン・ファン館へのアクセス改善につながるよう、市との連携を強化していく。
■外国人入館者の受入強化 ・多言語対応（WEBサイト・パネル・パンフレット・字幕システム）の整備は完了しており、引き続き受入環境を維持する。 ・インバウンド誘客については、施設単独での取組に限界があるため、石巻市観光部局やDMOと連携し、広域周遊型の旅行商品への組み込みを検討していく。
■カフェ・ショップの運営体制構築 ・カフェ利用者数が目標を大きく下回っている状況を踏まえ、カフェとショップの統合運営による効率化を検討する。 ・営業時間の最適化や、限られた人員での効率的なサービス提供体制の構築を目指す。 ・オリジナルグッズの開発を継続し、物販収益の向上を図る。
■満足度の維持・向上 ・満足度68%（肯定的評価93%）、再来館意向44%（同93%）という高い水準を維持するため、アンケート結果を活用したPDCAサイクルによる継続的改善を図る。 ・アテンダントの接遇品質の維持・向上に努める。
■地域連携の強化 ・石巻観光協会、石巻圏観光振興機構（DMO）、宮城県、石巻市との連携体制を維持・強化し、地域全体の観光振興に寄与する文化観光拠点としての役割を果たしていく。 ・地域イベントへの参画、商談会・キャラバン等への共同参加を継続し、広域的な誘客促進を図る。